

夏ノ六表

うちしめりがちに侍りければ無言へむごんを
はじめて西へにしを思ひける比時鳥の初音
を聞て

ほととぎす人にかたらぬ折にしも

初音きくこそかひなかりけれ

ひろさはの庵室へあんじつにひとりおこなひける
比よみ侍りし

さびしさにたえたる人の又もあれな

いほりならべん冬へふゆの山ざと